

マテリアリティ(重要項目)

マテリアリティ	社会課題	目標	活動	主に関連するSDGs	社会課題	2023年度目標	2021年度の進捗		
 社会 【社会の健康】	 健康	① 満たされていない医療・健康ニーズの存在 ② 感染症の蔓延 ③ 栄養ニーズの存在 ④ 高齢化に伴う課題の増加	<ul style="list-style-type: none"> アンメット・ニーズ解決への貢献 結核の撲滅 健康なくらしの実現のための仕組み作り 健康寿命の延伸 	   	①	<ul style="list-style-type: none"> アンメット・ニーズ解決に向けた研究開発促進 精神・神経領域の未充足な治療ニーズへの対応 がん領域ファースト・イン・クラス製品の創出 循環器・腎領域ファースト・イン・クラス製品の創出 アンメット・ニーズ領域における 新規開発プロジェクト：10プロジェクト以上 後期開発プロジェクトのフェーズアップ：30プロジェクト以上 	<ul style="list-style-type: none"> アンメット・ニーズ領域における 新規開発プロジェクト：15プロジェクト*1 後期開発プロジェクトのフェーズアップ：15プロジェクト*1 		
	 人材	⑤ プレゼンティーズム*1 ⑥ 多様化への未対応	<ul style="list-style-type: none"> 創造意欲を喚起する企業風土の醸成 従業員エンゲージメントの強化 	<ul style="list-style-type: none"> 人材育成 ダイバーシティ推進 健康経営 	   	⑥	<ul style="list-style-type: none"> 企業文化・理念のさらなる浸透 社会・時代の変化にも対応した継続的な人材育成の仕組み作り イノベーションの源泉ともなるダイバーシティのさらなる促進・浸透 より働きやすい環境整備のための新たな仕組みの構築 	<ul style="list-style-type: none"> 大塚グローバルアカデミー(OGA)の経営人材育成プログラム 延べ参加人数：203名*3 健康セミナー参加人数：延べ約2,800名 	<ul style="list-style-type: none"> Pan-TBコラボレーションへ参画継続、新規治療レジメンの開発を加速 世界抗結核薬基金(GDF)やアライアンスパートナーからデラマニドを供給 GHIT Fundへの継続参画
	 品質	⑦ 持続可能性を損なう消費・生産	<ul style="list-style-type: none"> ステークホルダーの信頼の獲得 バリューチェーンすべての段階での持続可能性の追求 安心・安全のための品質保証体制の確立 	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な調達と製品設計 徹底した品質管理と安定供給 責任ある販促活動と情報提供 ステークホルダーとのコミュニケーションの深化 「消費者志向経営」の推進 		⑦	<ul style="list-style-type: none"> SAQ(セルフ・アセスメント質問表)実施会社数：200社 バリューチェーンのすべての段階での持続可能性の追求 サステナブル調達 サプライヤー説明会開催：160社(当初目標は2023年までに30回(30社)以上) 	<ul style="list-style-type: none"> SAQ実施会社数：延べ137社 サプライヤー説明会参加会社数：延べ126社 新型コロナウイルス感染拡大下における製品の安定供給 「グローバル生産会議」/「失敗事例勉強会」、「環境経営情報交換会」の実施 	<ul style="list-style-type: none"> 「健康社長」を継続中 栄養の大切さを伝える食育活動を拡大 災害などにおける支援の実施 東京マラソンへの支援 全国高等学校総合体育大会への支援
 環境 【地球の健康】	 カーボンニュートラル *2	⑧ 地球温暖化	<ul style="list-style-type: none"> 2028年目標：CO₂排出量2017年比50%削減 	<ul style="list-style-type: none"> バリューチェーン全体のCO₂排出量削減 	     	⑧	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギー導入や、エネルギー利用の最大化によるCO₂排出量削減 バリューチェーン全体のCO₂排出量削減 	<ul style="list-style-type: none"> 気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)の提言へ賛同し、リスク分析を実施 	<ul style="list-style-type: none"> コージェネレーションシステム設備および燃料転換設備の導入 CO₂フリー電力*5をグループ5社*6の国内全23工場に導入完了
	 サーキュラーエコノミー *3	⑨ 環境負荷の増大	<ul style="list-style-type: none"> 2028年目標：廃棄物の単純焼却と埋立を2019年比50%削減 2030年目標：PETボトルにおけるリサイクル原料および植物由来原料の使用割合100% 	<ul style="list-style-type: none"> 資源効率向上による環境負荷軽減 社会・地球ともに持続可能な状態を目指した事業活動の推進 		⑨	<ul style="list-style-type: none"> 資源効率向上による環境負荷軽減 社会・地球ともに持続可能な状態を目指した事業活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> リサイクルPET樹脂利用PETボトルを販売開始 	
	 ウォーターニュートラル *4	⑩ 水リスクによる淡水の利用可能量減少	<ul style="list-style-type: none"> 2028年目標：工場の水管理プログラムをグローバル全拠点へ展開 2028年目標：水ストレス地域の事業拠点に対し、水利用戦略立案 	<ul style="list-style-type: none"> 水リスクの把握 水資源の管理と有効活用 		⑩	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な水利用におけるリスク分析と把握 水資源の管理と有効活用 	<ul style="list-style-type: none"> 水源管理プログラム構築計画の策定 	
 ガバナンス	⑪ 脆弱なガバナンス体制 ⑫ 社会変化によって生じるリスク	<ul style="list-style-type: none"> 長期的な企業価値向上 	<ul style="list-style-type: none"> コーポレートガバナンスの強化 コンプライアンスの徹底 リスク把握、評価、管理 		⑫	<ul style="list-style-type: none"> さらなる実効性を高めるため、コーポレートガバナンスの強化 グローバルな事業展開および多様な変化に対応するガバナンス体制の構築 グループでのコンプライアンス強化に向けた体制の構築 	<ul style="list-style-type: none"> 取締役の実効性向上のための改善活動 取締役会の出席率：100% 「大塚グループ・グローバル不正防止ポリシー」施行 サイバーセキュリティ基礎研修の開始 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理の実効性向上のための活動強化 海外リスクに対する対応強化 グループ各社の情報セキュリティレベルの強化 	

*1 出社しているにもかかわらず、心身の状態の悪さから生産性が上がらない状態

*2 持続可能なエネルギー利用

*3 持続可能な原材料利用

*4 持続可能な水資源利用

2023年度目標と2021年度進捗

特定された「大塚グループのマテリアリティ」の12の社会課題の中から、現在特に重要視している9つを選定し、2023年度の目標を設定しました。

*1 2019年からの累計

*2 大塚ヘルシーエイジングサポーター養成プログラム(Otsuka Advanced Training for Healthy Aging Supporter)：地域に密着した健康情報拠点としての薬局を支援するプログラム

*3 2021年12月末現在

*4 2019年からの累計

*5 CO₂を排出しない再生可能エネルギーに由来する環境価値を利用した、実質的にCO₂フリーとなる電力(実質CO₂フリー電力)も含む

*6 大塚製薬、大塚製薬工場、大鵬薬品、大塚化学、大塚食品